

発達障害を知ってください



発達障害とは

発達障害者支援法において、「発達障害」は「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」(発達障害者支援法における定義 第二条より)と定義されています。

これらのタイプのうちどれにあたるのか、障害の種類を明確に分けて診断することは大変難しいとされています。障害ごとの特徴(とくちょう)がそれぞれ少しずつ重なり合っている場合も多いからです。また、年齢や環境により目立つ症状がちがってくるので、診断された時期により、診断名が異なることもあります。

大事なことは、その人がどんなことができ、何が苦手なのか、どんな魅力があるのかといった「その人」に目を向けることです。そして、その人その人に合った支援があれば、だれもが自分らしく、生きていけるのです。

(発達障害情報・支援センターHPより)

それぞれの障害の特性

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用(言語発達に比べて)

知的な遅れを伴うこともあります

注意欠陥多動性障害 ADHD

- 不注意(集中できない)
- 多動・多弁(じっとしてられない)
- 衝動的に行動する(考えよりも先に動く)

学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

*このほか、トゥレット症候群や吃音(症)なども発達障害に含まれます。

(厚生労働省・政府広報オンラインより)

広汎性発達障害 (自閉症・アスペルガー症候群等)

自閉症

(例) 急に予定が変わったり、初めての場所に行ったりすると不安になり動けなくなることがよくあります。そんな時、周りの人が促すと余計に不安が高まって突然大きな声を出してしまうことがあります。

でも、よく知っている場所では一生懸命、活動に取り組むことができます。



アスペルガー症候群

(例) 他の人と話している時に自分のことばかり話してしまったり、相手の人にはっきりと「もう終わりにしてください」と言われないと、止まらないことがよくあります。でも、大好きな生き物のことになると、専門家顔負けの知識をもっていて、お友達に感心されます。



学習障害 LD

(例) 会議で大事なことを忘れまいとメモをとりますが、本当はメモをとることが苦手なので、書くことに必死になりすぎて、会議の内容がわからなくなることがあります。

後で会議の内容を周りの人に聞くので、「もっと要領よくメモを取ればいいのに」と言われてしまいます。

でも、苦手なことを少しでも楽にできるように、ボイスレコーダーを使いこなしたりと、他の方法を取り入れる工夫をすることができます。



注意欠陥多動性障害 ADHD

(例) 大事な仕事の予定を忘れて、大切な書類を置き忘れてすることがよくあります。周りにはあきれられ、「何回言っても忘れてしまう人」と言われてしまいます。

でも、気配り名人で、困っている人がいれば誰よりも早く気づいて手助けすることができます。



その他 (トウレット症候群・吃音(症))

通常は幼児・児童・思春期に発症します。多くの場合は成人するまでに軽快する方向に向かうと言われています。

トウレット症候群

(例) 授業中自分の意思に反して突然大きな声をあげたり、首を何度も降る動作をしてしまいます。そのため、学校の友達には、「落ち着きがなくて迷惑なクラスメート」と言われてしまいます。

こういった症状が出てしまうことが、障害によるものであることを、みんなに理解してもらいたいと思っています。

吃音(症)

(例) 会話をしていると、「きききききのう・・・」と単語の一部を何度も繰り返したり、つかえてすぐに返事ができないことがあるので、友人から笑われます。「ゆっくり話さない」と言われて、そうしようとするときますます話せなくなります。これが障害によるものであることを、みんなに理解してもらえるといいなとは思いますが、恥ずかしいので言えません。

その他 感覚過敏・運動障害

(例) 五感が非常に鋭敏で、甲高い音や機械音が苦手な耳をふさいで固まってしまうたり、においや味覚が過敏で偏食になったりすることがあります。

手先が不器用で、おはしがうまく使えなかったり、服のボタンがとめられなかったりします。歩き方もぎこちなかったり、スキップなどが苦手です。



ここに示したのはあくまで一例であって、どんな能力に障害があるか、どの程度なのかは人によって様々です。子どもにも大人にもこれらの特徴をもつ人がいます。発達障害は障害の困難さも目立ちますが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障害です。そのため、上で紹介したような印象をもたれていることが多くあります。近年の調査では、発達障害の特徴をもつ人は稀な存在ではなく、身近にいることがわかってきました。発達障害は脳機能の障害と考えられていて、小さい頃からその症状が現れています。早い時期から周囲の理解が得られ、能力を伸ばすための療育等の必要な支援や環境の調整が行われることが大切です。

(厚生労働省・政府広報オンラインより)